

測ってみました、町内の放射線

場所によって違う放射線の量

私たちが自然界から受ける放射線の量は、世界平均で年間約2.4ミリシーベルト（このうち大地から約0.5ミリシーベルト）とされています。反対派の中には「年間1ミリシーベルト以上被曝する場所には住んではいけない」という人もいますが、少ない量なら健康にはほとんど影響を与えないことがわかっています。

では、私たち上関町民はいったいどれくらいの自然放射線を浴びているでしょう。町内の数ヶ所を放射線測定器で実際に測ってみました。山口県は花崗岩質が多いため相対的に高いと言われてはいますが、測定結果はやや低い値でした。



上盛山展望台（空間に向けて）



単位はマイクロシーベルト

測定箇所の被曝線量（5回測定の平均値）平成23年6月8日16時頃測定 Sv=シーベルト

場 所	方 向	被曝線量（1時間）	被曝線量（年間）
上盛山展望台（下）	地面	0.037 ㉔ Sv	0.32 ㉔ Sv
同（上）	空間	0.028 ㉔ Sv	0.25 ㉔ Sv
上関漁協前	地面	0.051 ㉔ Sv	0.45 ㉔ Sv
同	空間	0.019 ㉔ Sv	0.17 ㉔ Sv
室津埋立地	地面	0.060 ㉔ Sv	0.53 ㉔ Sv
同	空間	0.056 ㉔ Sv	0.49 ㉔ Sv
室津漁港・上関漁港	海面	0.028 ㉔ Sv	0.24 ㉔ Sv

「地面」は真下に向けて地上10cmで、「空間」は肩の高さで水平に。「海面」は真下に向けて海面50cmで、いずれも1分間隔で5回測定。年間被曝線量は1時間当りの数値に24（時間）×365（日）で計算。



上関漁港（海面に向けて）



室津埋立地（地面に向けて）

田ノ浦は物置きやごみ捨て場ではない!!

「自然を守る」は口先だけのやりたい放題



海岸に放置されているシーカヤック

田ノ浦海岸では主に町外の反対派が土のうを積んで TENT を建て、集会を開いたりしています。掲載しているのは田ノ浦海岸の写真です。たき火の後始末もせず、ゴミを残し、カヤックも放置されています。

これが、『自然を守る』と言って妨害を続けてきた人たちの置きみやげです。



土のうを積み上げた小屋



土のう小屋の中の様子



ゴミなのか、寝具なのか



たき火の跡

後記

●東日本大震災および福島原電の事故により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。●私たちは全ての物事に「絶対」はないことを知っています。原電のような高度な安全性が求められる施設では「安全」の担保は信頼関係です。上関の原電は、皆に幸せをもたらす発電所にしてほしい。そのために、町民も事業者も力を合わせて頑張りましょう。(I)

今こそ未来に向けて

●細井教授に直接お話を聞かせていただくことができ、放射線についていろいろ学ぶことができました。また、実際に町内各地で放射線を測定しました。確かに放射線は見えないため恐怖はあります。しかし、確かな知識と安全対策により、問題は最小限に抑えられます。●福島原電の事故で、上関町の未来が閉ざされた訳ではありません。今、私たちがしなくてはならないのは、確かな情報をもとに、未来への町づくりを考えることだと思います。(K)